

平成 2 8 年第 5 回
上小阿仁村議会定例会
会 議 録

平成 2 8 年 1 2 月 1 3 日 (開会)

平成 2 8 年 1 2 月 1 5 日 (閉会)

13時30分 再開

○議長（小林信） 再開いたします。

○議長（小林信） 休憩以前に引き続き一般質問を行います。次に、3番 北林義高君の発言を許します。3番、北林義高君。

（3番 北林義高議員 一般質問席登壇）

○3番（北林義高） 村では、集住型宿泊交流拠点施設の建設を進めておりますが、チップボイラーなどの導入にあたっては費用を抑えるために、どのような補助金利用を考えているのかお聞きします。

村では、集住型交流拠点施設の建設に向けて動きだしておりますが、将来、周辺に各施設を集約してチップボイラーの導入などの構想を持っていると思います。

私達も視察先の北海道下川町でも、高齢化や社会経済、サービス、ビジネスモデル、まちづくりを目指して、環境未来都市に選定されています。村長が、いつも言うております山を動かすの言葉どおり大径木から小径木、枝葉、林地残材まで、全てを利活用しております。

バイオマスボイラー導入での公共施設の60%の熱需要を自給しており、年間、1,700万円削減して、ボイラーの更新や子育て支援に向けています。チップを製造することで雇用も生まれ、ゴミとして処分している解体材や林地残材の利用も進み、民有林の手入れも進むのではないのでしょうか。

しかし、チップボイラーやウッドハッカーなどは高額なために初期負担が大きくなります。補助金の利用で負担の減少を図るべきです。下川町では補助金獲得に向けて職員を固定して省庁に派遣をして、情報収集を行っておりました。

職員は、町にいるより出張の方が多く大変だったようです。森林認証習得やカーボンオフセットなど、様々な取り組みを行ってしています。村でも似たような環境ですので参考にしてください。

負担軽減にあたってはどのような補助金の利用を考えているのか、また、下川町では100kwから1200kwまで11基のボイラーがありましたが、村では、どれくらいの規模を考えているのかお知らせください。

議長（小林信） 答弁を許します。村長。

（小林悦次村長 登壇）

○村長（小林悦次） チップボイラーの導入にあたっては、次世代林業基盤づくり交付金というものを活用させていただきまして、50%の補助で購入整備を予定しております。

集住型施設の周辺につきましては、将来的には公共施設を集約して、暖房、冷房、給湯を集中管理することを検討させていただきたいというふうに思っております。当面、建物として考えられるものとしましては、特別養護老人ホー

ム等、それから診療所、保育園等の建物が将来考えられるというふうなことがあると思っております。これにつきましては、老朽化と同時に規模の関係から適正な維持管理ができるような規模を検討するというふうなことが考えられると思っております。

それと集中的な管理がされることによりまして駐車場等とかにかかると、それから維持管理費的部分について、管理人も含めてかなり集中することによって経費節減につながると、それによって、住民サービスの向上にもつながってくるというふうに考えております。

チップボイラーの整備等、安定したチップの供給につきましては、チップの需要が増えれば、チップ製造業の発展が見込まれるというふうなことがあります。そうなれば原料となります木材が必要となります。

原料確保につきましては、皆伐、間伐等で山に、今現在捨てられている曲がった木とか、細い木等につきましては、いわゆる収入にならないことから捨てられている状況にありますので、こられをチップとして活用できないかということが考えられます。これにつきましては、例えば、農閑期における農家の方々に、例えば、軽トラで山に行っていただいて、自分の軽トラに積めるような大きさでの運材をして、それをチップ工場等に運んでいただき段階で、重量に応じて、村でも少し支援をしたい。例えば、商品券の発行、もちろん農家につきましては、工場の方からそれなりの収入は得るわけですがけれども、やはり、それだけではなかなか進まないということが考えられますので、村においても、他の町村でもそういう同様なことをやられておりますので、そういうふうなことで支援をしていきたいというふうに思っております。

それから、ボイラー等の普及につきましては、とりあえず公共施設についての施設ボイラーの更新につきましては、チップボイラー等に切り替えるというふうなこと。それから新設の建設に伴うボイラー等についてはチップボイラーで検討していくというふうなことを検討することによって、山の木材を有効活用ができるのではないかとこのように思っております。

活用後の将来構想については、先ほど、説明をさせていただいたとおりであります。いずれ、整備をしないで、このまま放置しておきますと山は荒廃していくばかりですので、いわゆる整備をすることによって出てくる間伐材等によって、それを用材として使う部分とチップとして使う部分、そういうものをキット仕分けをしながら、村として、それを、支援をしていくというふうなことで、雇用につなげていきたいというふうに思っております。

ボイラーの大きさの検討につきましては、今、実施設計を組んでいる段階でありますので、適正な大きさのもの、将来的なものというふうなことを考慮に入れながら、検討させていただいておりますので、よろしくお願ひしたいと思

います。

○議長（小林信） 北林義高君。

○3番（北林義高） 下川町では、3,000ヘクタールの山林で、50ヘクタールで伐採、造林、育林を60年間隔で行い、循環型森林経営を行っています。町内の施設も大部分に木材を使用するなど、町内産の木材使用を進めています。

村でも、山を動かすの言葉どおり、村の産業である林業の活性化を進めていただきたいと思います。

私の質問は以上で終わらせていただきます。

○議長（小林信） これで、北林義高君の一般質問を終わります。